

サステナビリティボンド 年次レポーティング

2025年6月

南海電気鉄道株式会社



サステナビリティボンドの概要

- 当社は、サステナブルな経営を進めるべく、サステナビリティファイナンス・フレームワークを策定し、サステナビリティボンドを発行しました。
- その概要は以下のとおりです。

名称	南海電気鉄道株式会社第51回無担保社債 (社債間限定同順位特約付)(サステナビリティボンド)
発行総額	100億円
年限	5年
利率	年0.629%
発行価格	社債の金額100円につき金100円
払込/償還期日	2023年3月9日(木)/2028年3月9日(木)
発行時期	2023年3月3日(金)
第三者評価機関	株式会社格付投資情報センター(R&I)
ストラクチャリング・エージェント	大和証券株式会社
主幹事証券会社	大和証券株式会社、野村證券株式会社、 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社
取得格付	A-(R&I)
財務代理人	三井住友信託銀行株式会社

‘なんかいね’がふれてる

資金充当レポーティング

- 2023年3月に発行したサステナビリティボンドによって調達された資金の充当状況は、下表のとおりです。
- 未充当の残高については、現金または現金同等物にて管理しており、2026年3月末までにその全額を充当予定です。

◆ 適格プロジェクト別の充当額と未充当額

(2025年3月末時点)

事業区分	プロジェクト	充当額	未充当額
クリーン輸送 エネルギー効率	新型通勤車両8300系(6000系等代替)導入	17億円	－億円
	9300系(泉北高速鉄道3000系代替)導入	4億円	－億円
グリーンビルディング エネルギー効率	北大阪トラックターミナル1号棟	4億円	－億円
	大阪府食品流通センターE棟	67億円	－億円
雇用創出 社会経済的向上とエンパワーメント (地方創生・地域活性化)	泉北ニュータウン 「泉ヶ丘駅前活性化計画」	－億円	6億円
社会経済的向上とエンパワーメント (地方創生・地域活性化)	キーノ和歌山	2億円	－億円
計		94億円	6億円

◆ 新規ファイナンスとリファイナンスの割合

- 2025年3月末時点で充当済の94億円について、新規ファイナンスとリファイナンスの割合は以下の通りです。
 新規ファイナンス : 42億円
 リファイナンス : 52億円

インパクトレポーター：新型車両の導入

新型通勤車両8300系(6000系等代替)、9300系(泉北高速鉄道3000系代替)導入

◆ 導入車両の概要

- 車両の新造・改良を行い、より安心・快適に利用いただける環境づくりに努めています。
南海線・高野線を運行する8300系は、従来車両(6000系等)と比較して消費電力が約半分に抑制でき、車内外への騒音を低減する等、人と環境に優しい省エネ車両となっています。
また、泉北高速線では、2023年8月に新型通勤車両9300系を導入し、消費電力は従来車両(3000系)と比較して約半分となります。
- なお、8300系及び9300系は、4か国語に対応した車内案内表示器を設置するなど、環境に優しく、すべての人が安全で快適に使いやすい車両となっています。



8300系



9300系

◆ 環境改善効果に係る指標

導入車両数	60 (両)
C02排出量削減効果の推計値 (従来車両比)	1,027.7 (t-C02)

C02排出量削減効果の推計値は、上記導入車両の直近年度における走行状況に応じた1年間の排出量の新旧差の合計を示しています

(2025年3月末時点)

インパクトレポーター：グリーンビルディングの新築・改修等

北大阪トラックターミナル1号棟、大阪府食品流通センターE棟

◆ 物件の概要、グリーンビルディング認証の取得状況

- 北大阪流通センターを関西圏における一大物流拠点とすべく、物流施設の高度化に取り組んでいます。その起点として、2020年4月に北大阪トラックターミナル1号棟が竣工しました。また、大阪府食品流通センターE棟も2023年3月に竣工しました。
- 今後も、社会基盤を支える物流拠点の機能強化を図っていくとともに、環境性能やテナント利便性、オーナーや物件関係者の取組み等を評価する DBJ Green Building 認証の取得や、自然災害への備え、EVトラックの充電スペース設置など、物流業界・社会全体のニーズに合わせた施設づくりを進めていきます。

北大阪トラックターミナル1号棟 概要

- ◇所在地 大阪府茨木市宮島二丁目
- ◇竣工 2020年4月
- ◇延床面積 49,980㎡
- ◇構造 地上4階建
- ◇環境対応 LED照明、外壁サンドイッチパネル
- ◇環境性能 DBJ Green Building認証 4つ星



大阪府食品流通センターE棟 概要

- ◇所在地 大阪府茨木市宮島一丁目
- ◇竣工 2023年3月
- ◇延床面積 49,975㎡
- ◇構造 地上4階建(事務所部7階建)
- ◇環境対応 屋上太陽光発電設備、LED照明、外壁サンドイッチパネル
- ◇環境性能 DBJ Green Building認証 3つ星



◆ 環境改善効果に係る指標

エネルギー効率 (削減されたエネルギー消費量)	21,594,170 (MJ)
CO2排出量削減効果の推計値	927 (t-CO2)

(2025年3月末時点)

インパクトレポーターティング: 泉ヶ丘駅前活性化計画

泉北ニュータウン「泉ヶ丘駅前活性化計画」

◆「泉ヶ丘駅前活性化計画」の新築建設工事延期および事業計画見直しについて

- 当社は、2022年3月に「泉ヶ丘駅前活性化計画」の始動を発表し、既存建物の一部解体工事を順次進めてまいりましたが、昨今の世界情勢や急激な物価上昇に伴う工事費高騰の影響を受け、建築工事費が想定を大幅に上回る見込みとなったため、当初計画通りでの事業遂行は著しく困難な状況となりました。
- しかし、当社にとって泉北ニュータウンが重要なエリアであることに変わりはなく、このような困難な情勢に対応しながらも、魅力的で賑わいのあるまちづくり実現に向けて、現計画での新規建設工事の着手は一旦延期とし、現在、事業計画を再検討しております。
- なお、今後の事業計画の見直し、および新規建設工事着手の時期につきましては、決定次第お知らせいたします。

◆ ご参考

泉ヶ丘駅の一日平均乗降人員数 (2024年度)	35,553 (人)
----------------------------	------------

【参考】「泉ヶ丘駅前活性化計画」の新築建設工事延期および事業計画見直しについて(2023年8月リリース)
<https://www.nankai.co.jp/news/230824.html>

インパクトレポーター：キーノ和歌山

和歌山市駅前の中心市街地活性化「キーノ和歌山」

◆「キーノ和歌山」の概要

- 南海本線の南端である和歌山市駅において、和歌山市と共同で「和歌山市駅活性化計画」を市街地再開発事業として推進しました。
キーノ和歌山は当該再開発計画に伴い建設されたオフィスゾーン、商業ゾーン、ホテル、和歌山市民図書館等で構成される複合施設で、2020年6月にグランドオープンしました。
- 地域食材を扱う和歌山県内のサプライヤーによる産直売場の提供や天井・通路での紀州材使用など施設全体で和歌山らしさを感じることができ、医療施設等を含む多様な都市機能を充実させ、交流人口の増加とにぎわいの創出により、和歌山市駅周辺地域の活性化や魅力向上に貢献しています。

キーノ和歌山 概要

◇施設構成 オフィス、商業ゾーン、ホテル、
公益施設(和歌山市民図書館)等

◇延床面積 ・オフィス棟 約6,200㎡
・商業棟 約8,600㎡
・ホテル棟 約6,000㎡
・和歌山市民図書館 約9,600㎡



◆ 社会的便益に係る指標

和歌山市駅の一日平均乗降人員数
(2024年度)

15,373 (人)